

インマヌエル中目黒キリスト教会

2017年4月2日聖日第2礼拝

梅田昇主任牧師 着任の辞説教

「神の恵みによって、今の私に」

コリント人への手紙第1

15章1節～11節

梅田昇牧師

聖書朗読

新約聖書

コリント人への手紙第 1 15章1節 ~ 11節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています
第二版の聖書は 310 ページ
第三版の聖書は 339 ページ

- 1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私あなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。
- 2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。

- 3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、
- 4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、
- 5 また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

- 6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。
- 7 その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。
- 8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。
- 9 私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜ

なら、私は神の教会を迫害したからです。

10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。

11 そういうわけですから、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちがこのように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。

説教

梅田昇主任牧師 着任の辞説教

「神の恵みによって、今の私に」

コリント人への手紙第1

15章1節～11節

梅田昇牧師

主テキスト

「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒よりも多く働きました。しかし、私ではなく、私にある神の恵みです」

(1 コリント 15 : 10)

赴任の挨拶

- ・ これまでの諸先生方の働きを忘れずに教会信徒の私達は、これまで教会にご奉仕された諸先生方の労苦やご奉仕を決して忘れることなく、深い感謝を覚えつつ、日々の信仰生活を送るべきです。
- ・ 中目黒教会をもっと前進させましょう
教会の働きをもっともっと外へ外へと広げ、目黒区、いな、東京と、拡大させて行きましょう。

教会とは

- ・「はらから」4月号

教会は、キリストのからだ（体）。

体の各器官は、見える部分や見えない部分など、多々あり。しかし一切不要なもの無し。

同じように、教会に集まる信徒も異なる考えや背景など、人間の集まりなので誤解や勘違いなども生じるでしょう。しかしお互いが助け合い祈り合いながらキリストの体である教会建設に働きましょう。

コリントの教会の背景

- 一番問題を抱えた教会の1つ
コリントの教会には、分裂や分派、性的不道徳、礼拝の不秩序、異言をはじめとする賜物に関する混乱、やキリストの復活に関する教理的な間違いなど、いろいろな問題がありました。新約聖書の中で、コリント教会は、一番問題を抱えた教会の一つであったと言っても過言ではないでしょう。

「コリント人への手紙」執筆目的

- 使徒パウロの執筆目的
コリント教会が抱える諸問題に対して、教会のメンバーに霊的、实际的なアドバイスを与えるためにこの手紙を書いたのです。
- キリストの復活
教会の中にキリストの復活を信じない人達がいた。それを正すため、この15章の内容は「復活の章」と呼ばれ、「コリント人への手紙」の中で非常に大切な個所。

「コリント人への手紙」執筆目的

- ・よみがえりのキリストに出会ったパウロ使徒パウロは、よみがえりのキリストに出会い、その生涯を変えられた。その力強い証し、証言が記されています。

今朝は、この個所から

「神の恵みによって今の私に」
という題で神様のみことばをお伝えいたします。

パウロの回心前の姿

9節：

「私は使徒の中でも最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです」。

1．彼の生い立ちと少年時代

- ・タルソ（小アジア）のユダヤ人家系
- ・パリサイ人として厳格な教育
- ・ギリシャ語を習得し、ギリシャやローマ帝国の多様な文化を身に付けた

パウロの回心前の姿

1．彼の生い立ちと少年時代

- ・エルサレムのガマリエルという指導者のもとで教育を受ける
- ・将来はユダヤ教の聖職者

2．迫害者として活動

- ・主キリストを信じる人達（その当時の新興宗教）を、危険視扱い。迫害する。

パウロの回心前の姿

テモテへの手紙第一 1章13節

「私は以前は、神を汚す者、迫害する者、暴力を振るう者でした。それでも信じていない時に知らないでしたことなので、あわれみを受けたのです」

15節：「私は罪人の頭です」

とパウロは告白しています。知らないでしたこととは言え、彼は神の教教会を迫害し、クリスチャンに暴力を振るう迫害者でした。

パウロと主キリストの出会い

- ・ 主の顕現

4 節：「主は聖書の示す通りに、葬られ、三日目に甦られた」

主イエス・キリストは、復活の後、11回にわたって、多くの場所で、弟子たちに顕現して下さいました

- ・ パウロに対する主の顕現

使徒の働き9章。

「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害するのか」
主キリストとの個人的な出会いが彼の人生の方向転換

パウロと主キリストの出会い

- ・ 主の復活の意義

主キリストの復活は、救いのみわざの完成を意味する。

主イエス・キリストは十字架にかかり、私たちの救いのために死んで下さいました。主の復活は、主キリストが本当に私たちの罪のために死んで下さり、救いのわざを完成して下さいたことを意味しています

パウロと主キリストの出会い

使徒パウロは「神の恵みによって今の私になりました」と語りました。彼の生涯は、甦りの主にお会いし、神の恵みによって変貌されたのです。彼は「最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました」と証しをしています。神様に救われているということは、実に驚くべきすばらしいことです。パウロは、よみがえられた主キリストに出会い、人生の大転換を与えられたのです。

パウロの回心からこれまでの歩み

- ・ 弱さを持ったパウロ
- ・ さまざまな困難に直面したパウロ
コリント人への手紙第二11章23-33節
- ・ 福音のために奉仕を敢行し続けたパウロ
- ・ 神様は大きなご計画をもって、ユダヤ人でありながら、異邦人の教育や教養を身につけたパウロを、異邦人の使徒とするために選ばれた

パウロの回心からこれまでの歩み

- ・「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました」と告白
- ・「恵み」という言葉
新約聖書の中で最も中心的な言葉。
ギリシャ語ではカリス。
受ける資格がないのに、受ける愛顧、顧みという意味。
恵みは、神の愛、アガペーの愛と同意語。

神様の無限の愛と恵み

- 神様の無限の愛
アガペーを頭で理解することは難しい
母親の愛に一番近い
過去の罪を赦し、受け入れ、豊かな愛を
注ぎ、生きる喜びと使命を与えた
- 神様の恵みに感謝し応答する
信仰者は神様の恵みに信仰によって応答
したときに、救われ、神様との和解を経
験し、永遠の希望を与えられたのです。
何という感謝、何という幸いでしょうか。

神様の無限の愛と恵み

- ・ 恵みに対する感謝や感恩の情を弱めない
- ・ 弱くなると、信仰生活が形式的になる
- ・ 靈的に落ち込む
- ・ 神様の恵みによって今の私、私の現在があることをこの朝、しっかりと確認。

終わりに
主の恵みによって、今の私、
私の私とされている事実を心
に深く刻み込み、迎えました
4月、そして、新年度を感謝
と希望をもって歩み続けよう
ではありませんか。